

エムテックス マツムラ株式会社

常務取締役 松村澄男

弊社は、温泉や将棋の駒で有名な山形県天童市で、1945年に平和産業としてミシン部品の製造を開始した。まさに、山形の地場産業といえる（写真1）。

ミシン部品からスタートして、それが海外生産される流れの中で自動車部品の製造を開始した。東北で生産しても輸送費に負けないだけの高付加価値、高精度部品の加工を志向する戦略であった。その結果、その後の企業展開の方向が決まったと言って良いだろう。コア技術は、精密加工である。

〈早い時期に半導体の組立行程に進出〉

やがて、自動車部品も海外生産が拡大し、空洞化が見込まれたため、当時の中小企業としては異例な早い時期に、半導体（トランジスタ）の組立工程に進出した。その後、IC、LSIと半導体の組立工程を拡大してきた。それと平行して、半導体の組立工程で使われる各種製造設備を開発してきた。まさに、日本の製造業の変遷を先取りしながら、自社の技術とオリジナリティを発揮してきた歴史といえる。しかも、単に中央の企業からの下請けに甘んじることなく、世界で初めてマージャン機を自動化して一大ブームを起こしたり（写真2）、NASAの最先端技術を活用し



天童本社



尾花沢事業所



(株)新庄エレメックス



エムテックスベトナム(株)



(株)大石田電子

写1 エムテックスマツムラ(株)各事業所全景



写2 自動マージャン機

たヒートパイプの実用化を実現してきた。

以上のように、ある意味では企業の安定的な成長と、ある面では非常にチャレンジに満ちた企業経営を行ってきたといえる。しかし、近年の経営環境は非常に厳しく、日本国内で生産するべきものと、中国を中心とする海外での生産に委ねるものとを、峻別しなければならない時代であるといえる。事実、弊社においても、海外生産拠点としてのベトナム工場を立ち上げている。このベトナム工場は、ベトナムのホーチミン市の工業団地で1998年に創業したもので、当初は自動車部品の加工工場との位置付けでスタートした。延べで

100名位のベトナムの若者を、日本で教育して現地に送り込み、生産体制は順調に立ち上がったかに見えたが、人種や考え方の違いで微妙なコミュニケーションのすれ違いがあったり、生産予定品目の受注量の減少など、それなりの苦勞をしながら3年後には見通しが立ち、続いて2002年に半導体の生産を開始した。半導体は、ベトナム国にとっては初めての産業であり、立ち上げには大変な苦勞があったと同時に、大変な期待をもって迎えられたものである。しかし、海外の生産基地を中小企業が運営するということは、人材的・資金的に大変な苦勞を伴うものである。

このような経過を辿りながら、企業の寿命は30年と言われるが、今まさに弊社は、間もなく60年を迎えようとして、第3の大きな変革期に差し掛かっている。自動車部品加工や金型加工で培った精密加工技術、半導体製造で培った技術、そして半導体生産設備の開発で培った技術などのコア技術の上に、さらに新しい技術を積み上げて新たな技術の展開を図ることにより、来るべき30年に向けて出発しようとしているところである。

〈光干渉画像化技術の世界へ〉

現在、幾つかある開発テーマの中の一例としては、光干渉画像化技術(OCT)を応用した機器を開発するベンチャー企業を立ち上げた。このベンチャー企業は、光干渉画像化技術の世界の第一人者である、山形大学大学院教授の丹野直弘教授と弊社が共同出資で設立したもので、同教授も出資者ならびに取締役として経営に参加している、まさに大学発のベンチャー企業である。しかも、開発しているものが医療機器ということで、これまで弊社には無かった市場であり顧客である。そのため、今後、商品の信頼性から市場の開拓・回収、さらにはサービスまで一つ一つ構築し



写3 眼科医療機器(業事未承認・眼底断層装置)
デザイン(案) 協力山形産業創造支援センター

ていかなくはならない。弊社には、これまで全く光の技術と呼べる技術は無く、一から指導を受けてスタートしたもので、3年目になって企業化の目処を立て、ベンチャー企業であるマイクロトモグラフィ(株)を立ち上げたわけである。現在は、エンジニアを中心に13名で活動している。光干渉画像化技術の、非接触・非破壊・非侵襲で、光が物体の内部で散乱する範囲の深さ方向の断層画像が、極めて短時間かつ高精度に得ることができるという素晴らしい特徴を生かして、商品開発の可能性を膨らませている。当初は、眼科医療機器の商品化(写真3)を目指している。

この他にも、大手と組んだアプリケーションの開発や将来技術への投資を行っているが、全ての開発の源は人材である。高校や大学を出た社員でも、どれだけ勉強してきたか、どれだけ仕事に対して前向きに取り組むか、どれだけお互いに協力しながら仕事を進められるかなど、開発においては一般にいわれる学歴・学力もさることながら、目標を一つにしてそれぞれの力を発揮することがより大切であると痛感している。

〒994-8501
山形県天童市北久野本1-7-43
TEL023-654-3211(代表)
<http://www.mtex.co.jp/>